

# あいのかぜ

VOL. 33

2012・春号

“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人一人が男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

編集 男女参画・ボランティア課  
(〒930-8510 新桜町7-38)  
☎443-2051 FAX443-2176  
✉ danjyo-volun@city.toyama.lg.jp

## 特集 スイス流 ワーク・ライフ・バランス

富山市出身の夏子さん<sup>マチュー</sup>は、オーストラリアの語学研修でスイス人のMathieuさんと出会い、5年前に結婚。現在はスイスで2人で暮らしていらっしゃいます。

久しぶりに富山に帰省された夏子さんに、スイス流ワーク・ライフ・バランスについて伺いました。



(富山市内にて)

### <仕事について>

夫はレマン湖に接するローザンヌ市で、船のエンジン整備士の仕事をしています。朝7時から、昼休み1時間を挟んで8時間勤務です。

私は幼稚園の0歳から2歳のクラスで働いています。勤務時間や休日については、フルタイムの先生の勤務時間を100%とすると、72%の勤務時間で採用されました。0歳から2歳のクラス担当の保育者は5人いて、各自の事情に合わせて、自分達でシフトやローテーションを組んで働いています。日本ではなかなか思い切った連休は取りにくいものですが、1週間や2週間といった単位でまとまった休みをとることもできます。

週1回、近所の日系人などの日本語クラスで、2歳位の子どもが日本語に親しむための活動もしています。

### <家事について>

我が家では、夫より労働時間が短く、家にいる時間が長いので、基本的に家事をするのは私。ただ夫はよく1週間お休みという時があって、その時には家事を全部やってくれます。

スイスの家庭では、例えば奥さんが「ちょっと寒いわね…」とつぶやいただけでさりげなく夫がストーブで薪をたいたり、夕食のお皿も夫がキッチンで片付けたりしています。

そこには「……をしてください。」という言葉も「……してあげた。」という感覚も存在しません。

スイスでは、子どもの頃から自分ができる家庭の仕事は、一人一人が自発的に見つけて男女を問わず取り組んでいます。そんな環境がすてきな家庭を作る土壌になっているのかもしれない……。

### <心も身体も元気な状態で>

スイスでは、心も身体も元気な状態で、そして自分が自分らしいベストな状態で仕事に取り組むことが重要視されています。そのために一人一人が自分流の心のケア方法を見つけています。

大自然に恵まれたスイスでは、気軽に自然に親しむことができるようさまざまな規模のウォーキングコースが整備されていますし、幼稚園で子どもの行事などがある場合、夫婦ともに気軽に休暇をとることも可能で、家族そろっての時間を楽しむことができます。



大自然を満喫すること、そして家族の時間を大切にすることで十分リフレッシュし、毎日はずらつと仕事をする「ライフスタイル」がとてもまぶしく感じられました。

# レポート REPORT 男女共同参画とやま市民フェスティバル2011

平成23年10月16日(日)に、男女共同参画社会の実現に向けて「男女共同参画とやま市民フェスティバル2011」がサンシップとやまで開催されました。あいのかぜ編集委員が報告します。

## 講演会

獨協大学教授で経済アナリストでもある森永卓郎もりながたかくろうさんが「男と女のあり方が変わる 経済も変わる」と題して講演されました。

森永さんは、「経済」という視点から他国と競合しないものを作り出すこと、付加価値をつけることや新しい発想の大切さについて話されました。

男も女もお互いを尊敬し、ともにドキドキわくわく暮らせば、新しいものが生まれてくるはず。そのために、「今日もきれいだね!」と相手を褒めるあいさつを心がけるなど、「普段のあいさつや会話もうテン風に明るく変えてみ

ては?」とのお話で、森永さんの理想の国イタリアを例に挙げながらの巧みな話術に、会場は大きな笑いに包まれました。

とても分かりやすい講演で、「経済」から見た歴史の裏話のようでもあり、知的好奇心がくすぐられました。「経済」にも「男女共同参画社会」にも、各人の意識改革が必要だと感じました。

## シンポジウム

### ●パネルディスカッション

#### 「もしかしてデートDV?

#### ハッピーな明日のために」

【コーディネーター】石川結貴いしかわゆうきさん(作家)

【パネリスト】五十嵐恵美子いがらしえみこさん(芝園中学校校養護教諭)

竹澤みどりたけざわみどりさん(富山大学保健管理センター講師)

豊富安子とよひやすこさん(グループ女網~ストップDVとやま~相談員)

#### ◆若年世代を取り巻くデートDV(交際相手からの暴力)についてクローズアップしてみましょう

五十嵐さん: 若者の恋愛観や価値観は、携帯やインターネットの普及で大きく変化しました。特に内容が過激な携帯小説やマンガ雑誌などに影響され、これが「現実世界」なのだど錯覚し、小説のようにいかない現実に揺れている若者が多いです。彼らは、人間関係の構築やコミュニケーションの能力低下が原因で、自己中心的で友達との距離感が分からない、閉鎖的な人間関係の中で生きています。

竹澤さん: 人間関係でトラブルがあると、相手とかかわらないことで、問題を通過させるなど、解決より回避を選ぶ傾向にあります。また、表面的な人間関係がベースになっている人も多く、喜怒哀楽やさまざまな感情を適切に表出できず、内面にため込むため、心身に不調をきたすこともあります。

#### ◆デートDVの現状は?そして防止の第一歩とは?

デートDVは、暴力によって相手を支配し、自分の思い通りに動かそうとする行為です。身体的暴力以外にも、携帯電話を使って相手を執拗しつように束縛・監視したり、交際相手とやりとりした写真などをネット上に流したり…という精神的暴力などがあります。若年世代のネット環境に大人が追いつかず、対応が遅れがちな現実や、友達に相談しても「それは愛されている証

拠」と受け流され、孤立して、心身に傷を負う若者も多いです。五十嵐さん: 身体へのDV被害には敏感ですが、心に受けるものや目に映りにくい被害に対しては、教師や保護者の理解や認識が大変低いのが現状です。

豊富さん: 被害者の約7割は友達に相談し、親や先生に相談することは、ほとんどありません。「周囲がデートDVを理解していない→交際自体を否定されるので親に相談しない→誰も被害に気付かない」という現状があります。異性と交際経験のある学生のうち、女性の約2割、男性の約1割が、相手から暴力を受けたことがあると調査に回答しています。被害を受けたら別れてしまえば良いと大人は安易に考えてしまいますが、怖いけれど好きなので別れたくないと思ったり、DVの自覚がなかったりして、深刻な問題になることもあるので、軽視できません。相談できる環境を作ること、家庭や学校、相談機関が連携して支援することが大事です。石川さん: 被害者にならないために、嫌なことは「NO」ということがポイントです!しかし、問題が起きたときに一人で解決するのは非常に難しいです。若年世代は、コミュニケーションが希薄で、不安で傷つきやすいです。そこを周囲が手助けし、さらに加害者にならないために、交際相手と「言葉」のキャッチボールをしながら、相手の考え方を知り、自分がどうしてほしいかを率直に伝えあう、お互いを尊重できるような関係を築く練習をしてほしいです。

### DV相談電話

ひとりで悩まず  
相談してください!

- ・富山市男女共同参画推進センター ☎433-2210……受付日時: (火)~(金)10:00~17:00  
※(祝・休)および年末年始は休み ※4月の日程は、21ページの「相談日程」をご確認ください。
- ・女網ホットライン ☎491-1081……受付日時: (月)10:00~15:00 ※年末年始は休み

# 男女共同参画社会づくり 作文コンクール

男女共同参画社会の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に男女共同参画に関する作文を募集したところ、362点の応募がありました。

【最優秀賞】 林 香穂はやし かほさん(山室中学校2年)

【優秀賞】 堀井夕音ほりい しおねさん(芝園中学校3年)  
水島海斗みずしま かいとさん(山室中学校1年)

水上航希みずかみこうきさん(奥田中学校3年)  
本江健太もとえけんたさん(大沢野中学校3年)

【佳作】 磯野 惇いその しゆんさん(東部中学校1年)

大谷桃子おおたにももこさん(山室中学校3年)

白岩由衣しらいわ ゆいさん(大泉中学校3年)

武隈優太たけくまゆうたさん(西部中学校3年)

立村直也たちむらなおやさん(大沢野中学校3年)

田村愛友子たむらあゆこさん(堀川中学校3年)

永井麻美子ながい まみこさん(奥田中学校3年)

根立志帆ねだちしほさん(和合中学校3年)

原 秀彰はら ひであきさん(東部中学校2年)

吉川智博よしかわともひろさん(奥田中学校3年)

応募された皆さん、ありがとうございました。最優秀作品を紹介します。

## 「共働きの家庭に育って思うこと」 山室中学校2年 林 香穂

私の両親は、二人とも仕事をしています。父は会社員で営業のため、平日はほとんど出張で家にはいません。母は看護師で、パート勤務をしています。私が二才のころから現在まで、このような生活が続いています。

母は、苦勞して資格を取得した看護師の仕事にとってもやりがいを感じて、毎日一生懸命仕事に打ちこんでいます。本当ならば正職員になって、医療の現場でもっといろんなことを学び、活躍したいようです。しかし、父が留守がちなので父の代わりに家庭を守るため、また、家事や私たちの世話も一人でしなければならぬので、ずっとパート勤務をしているそうです。祖父母の家に行ったとき祖母が、「昔は男の人が仕事をして、女の人が家庭を守るという形式が一般的だった」という話をしてくれました。でも、現在は我が家のように共働きの家庭がほとんどで、女性も社会に出てどんどん活躍しています。私も将来家庭をもっても、自分が自分らしくあるために、やりがいのある仕事をずっと続けていきたいと考えています。多分、忙しくて大変で疲れていても、仕事と家事

を両立させて頑張っている母の姿を今まで見てきたからこそ、そう思うのだと思います。自分の仕事にやりがいを感じて頑張っている母は、とても素敵で、尊敬しています。

それから、父も週末に帰ってきて疲れているはずですが、必ず清掃の手伝いをしています。普段、家を留守にして母に負担をかけている分、少しでも協力したいと話していました。私は、そんな優しい父も尊敬しています。私も、できるだけ家事の手伝いをして、両親を助けていきたいと思っています。共働きだからこそ、協力していかなければお互いが大変だという気持ちが、思いやりとなって、家事も自然に手伝えるのだらうと思いました。そう思うと、昔とは違い、男性と女性が助け合って仕事に打ちこみ、家庭を守っていくというこの生活は、私にとっても大変理想的です。

私も将来一人の女性として、母のように家庭のために、自分らしく生きていきたいと思っています。

## 編集後記

森永さんの楽しい講演を聞き、気持ちの切り替えを心がけ、家庭でもラテン風の明るいあいさつを実践したいと思いました。「ドキドキわくわく」が、男女共同参画社会の実現と経済の発展につながることを願って。

(春日編集委員)

今回は、私の大好きなヨーロッパにお嫁入りした方の記事に興味津々。私の友にも国際結婚した人が多く、その喜び、苦勞、奮闘そして充実ぶりは想像できましたが、男女参画の視点で考える国際結婚はまた一味違うボールを私に投げてくれました。

(野上編集委員)

「一期一会」私はこの言葉が好きです。編集委員になって一年間、いろいろな方々にお会いして、お話を伺ったりして、私自身多くの事を学ばせていただきました。読者の皆様の感想もお聞きしたいと思います。

(村下編集委員)